

わたぼうし新聞 第15号

発行者 わたぼうし連絡会
発行日 1989年(平成元年) 5月20日

第15号の特集 「生きるとは II」

勇気の鈴 やなせたかし

勇気りんりんというから
勇気はきっと
鈴のかたちだろう
勇気の鈴をうちならし
吹雪の夜をだれかくる
あれが
私のまつひとか

この新聞は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考え等を出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

特集 《生きるとはⅡ》

このコーナーは一つのテーマについて、さまざまな人たちに意見を述べてもらうコーナーです。

川柳雑感・生きる

地域住民・在宅障害者

- ・アスファルトの割れ目に青い草が伸び
- ・雑草に生きる根性おしえられ 比呂雪

雪解け風に誘われて土筆が顔を出し、名も知らぬ雑草の芽が伸びてきた。あの固いアスファルトの割れ目に伸びる芽。石垣のすきまから太陽に向かって生きようとする草。人間に踏まれても、根から引き抜かれても、半分ちぎられても、なお白い根を伸ばす雑草。どれもこれも皆、与えられた条件の中で生きて行こうとすることは、我々人間に生きる尊さを教えてくれるようだ。

- ・生きている証拠義足が音をたて 比呂雪
- ・車椅子まわす手にある生活権 比呂雪

辞典で「生きる」とは“生命を保つ・生在している・生きる”とある。もしあなたが足を失い義足だろうが人間である。片手がなかろうが、又、車椅子のみであろうが人間である。人間は皆生きる権利がある。この生活権は誰からも奪われない尊いものである。

- ・今日生きた証拠に作業服汚れ 比呂雪
- ・夕やけの色は明日へ燃える赤 比呂雪

この生活権1日1日の積み重ねが人生だ。生きるには衣食住が必要だ。これを得る手段として労働の報酬がある。今日1日精一杯働いた証拠に作業服が汚れている。太陽が西に落ち夕焼けが赤く空を染めている。その赤は明日へ生きる勇気と希望を与えてくれる色である。

- ・人生をマラソンにした処世訓 比呂雪
- ・すて駒を打つ根性を見直され 比呂雪

“人生はマラソンだ”と誰かが言った。42.195キロ追いつ追われつどんなに苦しくとも、どんなにつらくとも走れ!! いや、時には歩いてもよかろう。時には将棋のすて駒を打つように大勝負に出るのもよかろう。とにかく走れ!! へこたれたらあかん。力強く名も知らぬあの雑草のように生きよう!! 貴方のその人生にカンパイだ。

生きるとは 地域住民・在宅障害者

私たちは現在この世に生まれてきましたが、必ず死ぬということが待っています。この期間は定まっていませんし、逃れることも出来ません。

聖書には「人間はパンのみで生きる者ではない」と書いてあり、ことわざに「トラは死んでも皮残す」とあります。

すなわち私たちは死に向かって生きているのです。私は聖書によって「永遠の生命」を得た者ですから、毎日感謝と希望の中に生活をしています。

精一杯 生きる 地域住民

私は短大を卒業するまで、まわりの生活に流されるまま生きてきました。ほとんど自分の意志をも持たず、その場、その場をなんとなく通り抜けてきたのです。そして21才の春に社会人となりました。

ちょうど、その年の秋頃から同級生たちが次々と結婚をし始めました。そのときに、私は今までの自分を振り返りながら、こんなことを思いました。「私も、このまま結婚をしていくのだろうか……。結婚をしてしまえば、迷わず主婦!! 私にとって青春時代って、一体何だろう。まだまだたくさん、いろいろなことをやりたい。精一杯に夢中になれることやってみたい、自分自身を試してみたい」そんな願望が湧いてきたのです。そして、そのときに私は、今までの生き方が自分を磨き、輝かせる生き方でなかったことに気付きました。

それから、私は自分の意志を持って何かの行動を試してみようと、そのときに飛び込んだのが青年活動でした。私は5年間の活動の中で、今まで生きてきた自分とは全く違う自分を発見することが出来ました。多くの仲間たちを得ることが出来、そして貴重な体験も数多くありました。活動の中で味わった苦しみも、寂しさも、失敗も、すべて自分自身の“実”となりました。精一杯生きるということが、私自身を変えたのです。

私は昨年11月に結婚をし、七尾市へ嫁いできました。5年間の精一杯に生きた日々があったからこそ、私は今、ここで「私らしく」周囲の温かい手に包まれて、生きていられるのだと思います。私はこれからも、常に精一杯の生き方をしていきたいと思っています。青春時代を過ぎようとしている私ですが、心はいつでも、チャレンジ精神一杯に生きて行きたいと思っています。

「わたぼうし新聞」編集委員に一言 「生きるとは」

毎日の生活の中で、何気なく過ごしていてもフト考えずにいられない。何億という人がいても、人それぞれがそれぞれの生き方をしている誰として同じ生き方をしている人はいない。

しかし、何と意思通りにならないのが人生だと思う。ほとんどの人がそう思いながら生きていてのではないのでしょうか？ (H. A)

最近のニュースを聞いていると、「生命」を軽く感じている人間が増えているように思えます。若者による殺人・イランの最高指導者が自分の国の宗教を批判した作家に対する「死刑宣告」と生命が軽く考えられているようです。

一度しかない人生を自分のわがままによって、他人の生命を奪う権利はあるのでしょうか。ガンで苦しんでいる人や運悪く交通事故、災害で亡くなる人がたくさんいることを考えてみる必要があると思います。誰にも他人の生きる権利を奪う資格はないと思いますが、皆さんはどうお思いでしょうか。 (Z. O)

確かに自分は生きていて、いや生かされている。自分は何をするために生きていてのか私には解らない。

今の私は時に追われて、ゆとりなく日々を過ごしている。障害者だから……。だからといって人に出来て、自分に出来ないことはないのではと、肩をいからせてやって来たその結果たどりついたところは叫び出したい程の絶対的な寂しさだった。寂しさを感じないときに気付かなかった自己の無力さと限界を知る。

生きていて、人と連帯を求め、愛を求めたい。愛されたい。愛したい。理解されたい。理解したい。

肩の力を抜き、寂しさを道連れに生きるのもいいかも知れない。人間は寂しい中で成長するとか。Loneliness is for loving (寂しさは愛するためにある) どこかで目にした言葉です。 (M.M)

生きる、最近やっと生きていてということをも自分自身の思考や行動、日常の様々な場面で意識するようになりました。今更、何を言うのかと思われるかも知れません。それまでは、特に生きていてということに対して積極的に考えるでもなく、意識もしていませんでした。

ある著名人は“生きるということは死を待つこと”何て言っていました、一理あると思えません。

いろいろところで人と出会い、新しい発見をすることがとても楽しみです。それは、生きて行く上で自分が大切にしたいものは何かと考えた時に、いろいろと考えたあげくに、やはり、たくさんの人との出会いのいろいろなものを吸収し、人間性を高めてやくことがよいと思うようになってきました。「生きる」ということは社会の中に自分を生かして行く積極性ではないのでしょうか。 (T.K)

ビデオの紹介

遠い夜明け

(カラー157分)・VHF252 定価：15,000円(税別)

発売元：CICビクタービデオ株式会社

平和が成る時代、という平成元年。戦争回避といいながらもキナくさい世の中。そこで南アフリカのアパルトヘイトを扱った「遠い夜明け」なのだ。人種差別という厚く醜い壁を押しよけるために傷つき倒れていく人びと。そんななかであればこそ、人間の勇気がもっと必要なのだと、握りこぶしを挙げてしまいそうだ。と、生真面目に見るもよし、という作品としておススメ。

(NHK社会福祉セミナーテキストより)

スポーツと出会って

地域住民・公務員

私は幼い頃、ポリオという伝染病の為に、両足の機能を全廃するという全くもってついていない病気にたまたまかかってしまいました。それ以来両足で大地に立つということは私の知らない世界となってしまいました。

そんな私を母は普通の幼稚園、普通の小学校へと通わせたので、みんながやっていることと同じことを私もやらなければ気がすまないという、どうやら負けず嫌いの性格になってしまったようです。

そんな私の一番の相棒の車椅子君をちょっと、ここで紹介したいと思います。体重は10kg、バスト・ウエスト・ヒップはいずれも私にピッタリサイズ、行きたい所へはどこへでも私を乗せて連れて行ってくれますが、ちょっと階段がある所では、私の要求を拒否するくせがあるだけで後は、まあまあ私に付き合ってくれるとてもいいヤツです。そして、この車椅子君のおかげで随分目立つことをやってしまうことになるのです。

私が高校1年の時に、体育の先生が「今度、県体があるのだけれど、直ちゃん、何かやってみない？いろいろな種目に今まで先輩たちが出場してけれど、水泳に出た人はいないみたいよ」と言われ、「よ～し、それじゃ、水泳に出ます」と言ったものの、全くと言っていい程泳げない自分でした。それなのに何故、水泳を選んだか自分でも不思議なのですが、第一には母校から水泳に出た先輩が1人もいなかったということで「私がやってやる」という挑戦的な気持ちと、「何となく泳げる」ような気がしたからなのです。そうと決まっただけからは、学校の先生とよくプールに通ったものです。県体では水を飲みながらもどうにか25mを泳ぎ切り、それが第12回佐賀身体障害者国体への出場の糸口となったのです。第12回佐賀身体障害者国体では、自分でも想像以上の大会新記録という成績が出て、この時ほど嬉しいことはありませんでした。

この頃よく人から、「人前に自分の水着姿をさらすことに抵抗がないのか」と質問をされました。しかし、そんなことは、水の中の素晴らしさには替えがたいちっぽけなもので

す。それに、歩ける人のなかにも泳げないという人がたくさんいるという中で、私は両足が利かなくても「泳げるのよ」という優越感もちょっぴりあったことも事実です。

そんなある日、突然訪れたチャンス！外国へ行けるかも知れない。それもただの旅行や、レジャーの為ではなく、世界の仲間たちと競うスポーツ大会に日本のナショナルチームの代表選手としてです。

決定の知らせを聞かされてからの日々は、練習、練習の毎日を過ごしました。日本各地から集まった多くの仲間たちと一緒に東京のオリンピックセンターで合宿したときは、全く今まで知らなかった世界が次々と開けてきて、厳しさも前よりも増して、生半かな気持ちでは到底ついていけないと自覚させられました。「あなたは学生だから」という甘いことも、「車椅子だからあれは出来ません、これも出来ません」ということは許されない。車椅子だからこそ「やらないきゃいけない！」ということを知りました。

そして、1977年11月13日に私たち日本選手団は日本を離れ、オーストラリアへと向かったのです。オーストラリアはとても美しい国でした。皆さんの中にも行かれた方がおいででしたら、よくお分かりのことだと思います。

私たちは初夏のオーストラリアで、夏のクリスマスシーズンを迎えたのです。街はクリスマスの準備が進められ、街行く人々の服装は半袖、半ズボンとといった風でした。

さて話は大会の方へ戻しますが、この大会は第2回極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会といって、(フェスピック)と呼ばれているものです。

私自身は5種目に出場し、成績は水泳と卓球では銀メダル、陸上では60m走ダッシュとトラックの400m走で金メダルを獲得しましたが、スラロームでは失格となり、反省させられることがたくさんありました。このような貴重な体験を学生時代に得られたということほど、幸せなことではないでしょう。

それから、高校を卒業して社会人となってからも車椅子バスケットボールを始めとし、それに平行して車椅子マラソンをすることになったのです。それはある日、1人のリハビリの先生との出会いでした。

その先生は私の太い腕を見て「う～ん、これはかなり走れそうな腕だ！」と見込まれ、安易にも「ハイ、やります」と言ってしまったからには、もう後には引けません。あんな大変なことだと知っていたら、一つ返事はたぶんしなかったと思います。目標は大分国際車椅子マラソンの42.195kmのフルマラソンを完走し、尚早、表彰台に登ることでした。

何が大変かというと、走ることはもちろんそうですが、走ることそのものよりも仕事をしながら練習に打ち込むということが何よりも大変でした。ままたらぬことの他は会社の理解により5時に仕事が終わってから、車を飛ばして県立中央病院まで行き、6時から9時までみっちり組まれたトレーニングをこなし、帰宅してからは炊事・洗濯を毎日こなすという生活が続き、正直言って、身の回りのことをやってくれる奥さんが私自身ほしいなあと思ったくらいです。本当に笑い事ではありませんでした。一人暮らしのちょっと損なところですね。人からは、そんなひどい思いをしてやめようと思ったことはないのかと聞かれましたが、とんでもありません。私には目標がありましたから・・・。

そして、大会までの出場の日々が近づくにつれ、走る距離も10kmから20km、30kmから40kmと増やし、日曜日は40kmにチャレンジするというスケジュールで、リハビリの先生方が一丸ととなつて協力して下さり、特に私の伴走をして下さった先生方は私以上にひどい思いをされたこ

とは間違いありません。

そんな万全対策の中で、やはり、不安やプレッシャーが精神的に一番重いものでした。ここまで協力していただき、もし、それに報いられぬことになってしまったら、どんな顔をして帰ってくればいいのか、と常に胸の中を渦巻いていたことを覚えています。

様々な思いを抱いて大分へと向かいました。そして、今までやってきたことの全てを賭けて、42.195kmを2時間38分14秒で完走し、更に女子の部で世界第3位と夢にまで見ていた表彰台に自分が登ったときは感無量でした。

こうして振り返ってみますと、県体・国体・国際大会・マラソンと演じた人間は1人ですが、その1人の人間にどれだけ多くの方々が投げかけてくださったか。そうです。私は自分で光っていたのではなく、多くの方々の光を集めて、私は光からさせられていたんだということに気がついたのです。

手にした数々のメダルやトロフィは、私1人で勝ち取ったものではなく、私にチャンスを与え、陰になり陽なたになって下さった多くの方々の偉大な力に支えられていたからこそだ、ということを私は忘れてはならないと思います。

「失われた物は数えるな、残された機能をフルに生かせ」のこの有名な言葉通り、これからも自分の生き方に限界の境界線を引くではなく、前向きに進んで行かなくては、と思っています。

今後の目標として、当面は平成3年の第27回石川全国身体障害者スポーツ大会にめがけ、現在私の所属する車椅子バスケットボールに全力をつくし、少しでもレベルの高い試合をしたいと願いつつ体育館へ足を運んでいる次第です。そして、随分と活躍してくれた車椅子君とも、これからもまだまだあきたりないと見えて、長い付き合いになりそうなイヤな予感がしている今日この頃です。

どうか、皆さん町でこの車椅子君を見かけたおりに、又、声をかけてやって下さい。少々生意気にもテレ屋などところがあるので、失礼するかも知れませんがどうぞ気に止めず、よろしく願います。

われら仲間たち

石川県車椅子バスケットボール・クラブ

私たちのクラブは、車椅子バスケットボールを通じてクラブ員及び障害者のスポーツの振興・育成を図り、体力の向上、他のクラブとの親睦と交流を図るとともに、クラブ員の社会復帰を目的として活動を行っています。

クラブ員は女性1名を含む9名の選手・監督・コーチ・マネージャーでチームが構成されています。

現在は平成3年の第27回石川全国身体障害者スポーツ大会を目指して、週2回金沢市むつみ体育館において練習を行っています。練習だけでなく、3月に富山・4月に福井・5月21日には名古屋のチームと試合を行っています。

3月にはNHKテレビでも紹介され、全国大会に向けて選手一同は優勝を目指して、真っ赤に燃えています。皆さんも応援してください。

もの知り博士・登場!!

身体障害者スポーツの振興

諸君、緑の季節がやってきたね。今回は趣をガラリと変えて、スポーツについて講義をする。

障害者にとってスポーツは、機能回復や健康増進に役立つのみならず、積極性や協調性を養うにも効果的であり、レクリエーションとしても意義が大きいのである。我が国では、殊に昭和39年の東京パラリンピックを契機として身体障害者スポーツに関心が寄せられるようになり、国の助成事業としては、昭和40年以来、国民体育大会の開催地で毎年開催される全国身体障害者スポーツ大会、随時開催される国際身体障害者スポーツ大会への選手団派遣等に対する補助が行われている。

諸君、これからはスポーツ季節だ。5月21日に開催される県身体障害者体育大会、平成3年の第27回全国身体障害者スポーツ大会を目指して頑張ろう。大会に出場しなくても思っきり体を動かそう。

じゃ、これで講義は終了だ。質問をたくさん待っている。バイバイ。

(参考文献・介護福祉士講座障害者福祉論)

各地からの催しものだより

石川県身体障害者団体連合会主催・ハロー・ばれんたいんパーティ

石川県身体障害者団体連合会

「ただ今からハローばれんたいん!! パーティを始めます」という司会の案内とともにクラッカーがバンバンと鳴り響く。華やかなパーティの幕開けである。

2月5日(日)、石川県社会福祉会館において「ハローばれんたいんパーティ」が開催された。県内の身体に障害をもつ未婚の男女を対象に結婚相談事業の一環として行われているもので、パーティ形式で行うのは今年度で2回目、当日は男性36名、女性12名の参加を得た。

まず「ジャンケンゲーム」で場の雰囲気をもたせかけた後、参加者同士で気楽に話し合いの中から、気のあった人を見つかけられるようにと、組んだ「フリータイム」へ移った。是非、人生のパートナーを得ようと参加した人とパーティを楽しむために参加した人がいたようでした。はじめこそ会話の糸口がつかめず意気詰まるような緊張感が漂ったが、徐々になごみ、打ち解けたグループもみられた。しかし、概して会話がはずまなかったことが今後の反省点となった。

また、「結婚へのメッセージ」として全盲の方同志の結婚で、現在妻として2児の母として奮闘されている潤瀧玲子さん(金沢市金石在住)の経験談は、ハンデイクャップを乗り越えての生活が感動的で、その幸福な様子に皆の大変なはげみとなった。

「プレゼント交換」では、バレンタインにちなみチョコを交歓しあい、記念に「写真撮影」をしてパーティの終了となった。

係員(県・県身体障害者団体連合会・ボランティア)7名で計画をしたプログラムであったが、少人数の企画ゆえに不備な点がまみられた。試行錯誤している行事なので、参加者の中からも企画に加わっていただき、よりよい形を作り上げて行けるようにして、いずれは参加される皆さんが協力しあい、「自らの手で作り上げて行く行事になれば・・・」と願うものである。

八代英太氏を囲む会

石川県脊髄損傷者協会

2月21日、金沢市八田町にある寿康苑において、八代英太氏を囲んで話し合いの場を持ちました。金沢の脳卒中友の会の人たちや身体障害者の人たちなど約110名の参加がありました。

内容は、これからの消費税のことや労働災害・無年金の救済・年金の見直しなどの話がありました。障害をもつ人たちは人ごとじゃないと耳を澄ませて約1時間30分ほど話を聞いていました。参加者の中からの年金問題などの質問に受け答えをして、無年金者がいないように国会でも一生懸命になっているとのことでした。

事務労災者の年金の引き下げなどはありません、1～2級と同様になることを話し合い、「障害者の皆様も安心してください」ということでした。それに、遺族年金を支給してもらうときは、しっかりと話を聞いて手続きをして下さいということでした。

1時間30分は「あっと」いう間に過ぎ、まだまだ聞きたいことがたくさんあるものの、「是非また、石川県へ来て下さい」と参加者は口々にして八代英太氏を囲む会を無事に終わりました。

これからの催しもの

第27回石川県身体障害者体育大会

《5月》

- ①主 催：石川県身体障害者団体連合会
- ②開催期日：平成元年5月21日（日）
- ③目 的：身体障害者がスポーツを通じて、機能の回復と体力の維持増強を図り、自らの障害を克服して、明るい勇気と希望をもってたくましく生きていく能力を育てることを目的とする。
- ④会 場
 - ・陸上競技：石川県西部緑地公園陸上競技場（金沢市袋島町）
 - ・卓球競技：松任市身体障害者センターこがね荘（松任市博労町）
 - ・水泳競技：松任市総合公園室内プール（松任市倉光町）
 - ・アーチェリー競技：湖南運動公園アーチェリー場（金沢市八田町）

秋の第25回北海道全国身体障害者スポーツ大会を目指して頑張りましょう！！

社団法人厚生車軸福祉協会石川県支部結成会及び全国大会を七尾市で開催

当会は名誉会長・顧問の三笠宮様をはじめ、国立重度身体障害者センター・警視庁のご協力で、車区椅子と自動車を足として働く全国身体障害者促進団体で昭和30年発足。3年後に法人となり、努力の結晶で35年に自動車運転免許証をいただくことが出来た大きい会です。

開催要領

- ・開催期日：6月10日～12日の3日間
- ・場 所：石川県身体障害者保養センター 六翠苑
- ・定 員：60名
- ・費 用：1泊2日 5,000円
2泊3日 11,000円

なお、11日午前9時より正午の日の大会出席者は無料。11日午後よりの交通安全パレード参加者はお弁当台として500円です。

また、交通安全の立場からアルコール飲料は会費に含みません。会議中も禁酒です。

わたぼうし広場

人情味ある声 在宅障害者

バスの中や街角で声をかけられた。振り返れば旧友であったり、懐かしい恩師との巡り合いに、時の経つのも忘れて話し込んでしまうことがあるものです。

年も明けて1月末のこと。社会福祉サービスによって、最近オープンしたディケアーセンター（場所は志賀町赤住の「はまなす園」近く）では、週に1回、または何週間に1回といった割り当てで、希望する老人をマイクロバスが送迎サービスをしています。

初めて我が家の祖母を迎えに来ていただいた朝、玄関の前で「それじゃ、お願いします。」若い運転手さんに言った時です。

いきなり私を指さして「おい！お前、同級生じゃないかい？」「えっ？」首を傾げている私。「おれ！おれだよ！大津の『K』だよ」「あー『K君』？」「わからなかったがな？」「うん、太ってたー」「おい、おい、これで少しやせたんだぜ、なあ今何しとるが？」「うん、少し和裁してる」「へーじゃおれの『ふんどし』縫ってくれるか？」「えー？『ふんどし？』や～わ！」と数分たらずの語り合い（同級生ならではの言葉遣い）で、大笑いをしてしまった私たち。

マイクロバスに乗っているおじいちゃん、おばあちゃん方は「何を言うとするがやらねー」という顔つきで、窓から見ているようでした。

バスを見送りながら「友達っていいなあ、声をかけてくれてありがとう。」とつぶやいていました。さわやかな気持ちが広がるばかりの1日でした。そして、未だに聞こえてくるのです。明るい春風に乗った“掛け声”忘れられない思い出となって！ 2月末制作

介護福祉士の国家試験を受けて 障害者支援施設・介護職員

近年、福祉関係職員の質の向上が叫ばれ、今年初の国家試験が実施されました。私も試験を受けた者の1人ですが、正直言って資格ということに本当に必要なカナと少々疑問を感じています。

しかし、資格が必要か否かの前に自分はそれに向かって勉強し、頑張ることが大切だと思い、精一杯頑張ってトライしてみました。結果はどうであれ、何事に対してもトライすることが大切です。皆さんも何か目標を立ててみては？あなたもトライしてみませんか？

NHKラジオ・社会福祉セミナー

- ・放送時間：NHKラジオ第2放送 毎週日曜午後8時30分～9時
- ・再放送：翌週日曜午前7時30分～8時
- ・テキスト：3. 6. 9. 12月の20日頃発売 定価：660円（税込み）

この番組は昨年度も紹介いたしました。今年度はより詳しくなり、充実した内容で放送されています。ボランティア活動にも最適な番組となっています。

～詩～

炎のように 障害者支援施設・利用者

雨にうたれてこの世を消えたい
この身体がいやだから
海に流されこの世を去りたい
人間関係から逃げたいから
だけど私はこの世を 生くしか道はない
こんな言いかたは おかしいだろう
こんな身体でもこの世に 生命を受けたのだから
こんな身体でも生きる 喜びがあるから
人間関係から逃げたいと言うが
やはり私は人間が好きです
怒ったり励ましたり喜んだり
そんな人と人との触れあいが 楽しいから
道に迷うのも良いだろう
雨にうたれて死ぬより
風に流されて死ぬより
炎のようにたくましく
生きるほうが美しい
燃えろ燃えろよ生命の炎
こんな身体でも生きるんだ
こんな身体でも生きるんだ

ワンちゃん・ニャンちゃん大集合

～ワンちゃんの巻～ 地域住民

- ・種類：ワイヤーロング ミニチュアダックスフンド
- ・性別：メス
- ・名前：宮本 マリリン
- ・我が家へ来て：10ヶ月
- ・毛色：グレー、白がところどころ交じっている
- ・性格、クセ等

こんにちは、マリリンです。私のチャームポイントは、パチパチおめめと長いまつ毛、それに短い足です。「こんにちは」と「ごめんなさい」が出来るんだよ。

朝、靖也兄ちゃんと八千代姉ちゃんにキスをして見送った後、おばあちゃんと一緒にお店へ行って、お客さんにご挨拶するのが私の仕事です。

でもネ、本当は姉ちゃんのプープーに乗って一緒にお仕事に行きたいんだ。ただ今、おムコさん募集中!!

☆編集局からのお願い

このコーナーに登場してもらって楽しいワンちゃん・ニャンちゃんを募集しています。

今まではワンちゃんばかりですので、ニャンちゃんを広く募集しています。写真は印刷できませんのでイラストがあれば大歓迎!!

本の紹介

風になる

俵 万智：著 いわさき ちひろ：絵

河出書房新社 定価 1,300円（税別）

……1冊の絵本の扉をひらくとき扉のむこうを吹く風になる……

今は亡き、いわさきちひろ絵と俵万智の短歌の出会いが生んだ新しい世界、絵本版「サラダ記念日」です。

編集局より・原稿募集について

前号でもお願いしましたが、16号よりテーマ「私の趣味」について皆様のご投稿をたくさんお待ちしております。あなたの楽しい趣味を『わたぼうし新聞』で紹介してください。また、新しい友だちに出会えるかも？

また、各地の催し物だよりに掲載いたします行事・催し物の情報をお寄せ下さい。編集の関係上早めにお寄せ下さい。障害者関係の催し物にこだわらず、幅広く募集しておりますので、編集局までお寄せ下さい。

編集後記

5月、初夏。今年は冬が暖冬だったせいかあまりピンときませんが、皆さんはどうでしょうか。

テレビや新聞は連日なされている「消費税・リクルート」の報道に「あきれてしまっちゃ」と言いたいのですが、これらのニュースを聞けば聞くほど、我々庶民をいじめていることに腹の虫が騒いでくる毎日です。

先日七尾ジャスコへ買い物に行き、980円の値札がついているのに1000円で買えない悔しさをかみしめました。本当に小銭が必要な時代になりました。1円玉を使うことが多くなった日々に怒りを感じるこの頃です。(Z. O)

新緑が鮮やかに目に入ります。毎日が過ごしやすい季節となりました。

今回の特集「生きるとは」は、テーマとしては少し大きすぎましたが、「生命」の尊さが軽ろんじられている風潮の中で再度考えてみたいということで取り上げました。皆さんのご意見・ご希望・文芸作品等をお待ちしております。(H. A)

16. 17号のテーマは「私の趣味 I・II」